

## J R 須磨駅前 交通実験の試み

須磨駅周辺地区まちづくり協議会  
会長 土井育男

### 1. できることから取り組んでみよう!

私たち須磨駅周辺地区まちづくり協議会は、JR 須磨駅北側の約7ha を活動区域として、多くの方が利用する須磨駅を中心とするまちが安全・快適・魅力的になるよう、活動を続けています。

JR 須磨駅前は、須磨駅周辺地区だけでなく地域にとっても大切な交通の拠点でありながら、利便性・安全性の根本的な改善の取り組みができない状況が続いています。現在の JR 須磨駅前は、通勤・通学利用のラッシュ、観光シーズンの利用客増があるにもかかわらず、送迎の自家用車がUターンできる交通広場すらくなく、自家用車、タクシー、そして歩行者で混雑しています。駅前の整備に関しては様々な要因が複雑にからんでおり、一朝一夕で大変身できる状況ではありません。都市計画決定されている駅前広場と国道2号の拡幅については、事業の影響が大きいにも関わらず、整備時期は不透明です。



●混雑する  
JR 須磨駅前

このままでは、いつ駅前が安全・快適・魅力的になるのか分からず、駅を中心とする住宅地の空き地も残り、商店街の活気も徐々に薄れていくのではないかと危機感を持っています。協議会の勉強会で駅前のまちづくりを話し合い、構想なども検討しましたが、そう簡単には具体化に結びつきません。

そこで、「できることから具体的な取り組みをしてみよう!」となり、現在タクシーが待機スペースとして使っているJR 所有地を活用して、最小限の駅前広場(ロータリー)を設置したらどうなるか、実際にそ

の変化・効果を確認してみる交通実験を計画しました。警察をはじめ神戸市関係機関、JR やタクシー協会との約2年間の協議を経て、平成16年2月末~3月末の1ヶ月間、交通実験を行うことができました。

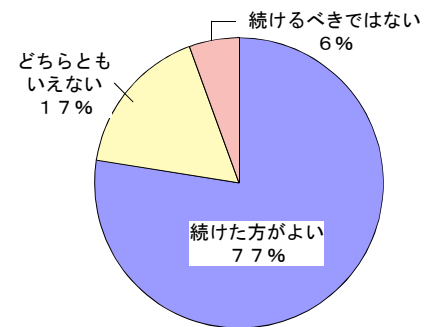
### 2. 評判は上々! 効果も課題も実感できた!

限られたスペースでロータリーを設けるため、図面上では回転が可能でも回りにくいのではないかと心配していたのですが、実際は、とてもスムーズに回転できていました。大型車でもロングタイプを除いて、ロータリーを利用することができました。



●ロータリーを  
回る自家用車

ロータリー実験中は、車の切り返しで混雑することもなく、自動車の量が減ったのではないと思うほど、すっきりと見えました。歩行者の横断を気にすることもなく、スムーズに自家用車が流れていました。実験期間中にJR 須磨駅を利用された方などに行ったアンケート調査でも、ロータリー設置の評価は高く、継続を望む声を多く聞くことができました。



●アンケート結果  
(ロータリーの継続について)  
(4面に続く)

# ワークショップ隊派遣報告 ～その2～

前月号ではワークショップ隊の派遣実績について、データで示し、派遣先の評価などについて報告を行ないました。今月号ではワークショップ隊の半年間の成長と、今年度で事業が終了するため来年度以降のワークショップ隊の制度について報告を行ないます。

## 1. ワークショップ隊の成長

ワークショップ（WS）隊のメンバーの中には、WSを一度も体験したことがなく、『WSって何？』というメンバーもいます。しかしWSの研修を受け、また実際のWSに派遣されることにより、WSについてもかなり慣れてきます。WS隊の中には多い人で半年の間に15回以上も派遣されるため、驚くほど成長することもあります。

WS隊のメンバーは基本的に積極的に動こうという人がほとんどです。WS隊として活動していくためにはこの積極性があるかどうかが大いに重要であると思われまます。WS隊として派遣されれば、そこは初めて行くところであり、出会う人も初めての人です。その中に入ってWSのお手伝いをしていこうとすれば、積極的に動かなければ何をしにきたのか分からなくなるためです。

前号で紹介した通り、WS研修の中では最後にプログラム作りを行います。これは半年間の経験を活用して、WS隊自身でプログラムを作り、自分たちでWSを行うというものです。このプログラム作りがWSの難しさ・楽しさが理解でき一番おもしろいと思われまます。

その中でH16.3月に終了した第4期生はWS隊として過ごした半年間についてWSで振り返ってみて、WS隊として必要な五箇条を写真のように皿にまとめました。

- 一、とにかく前に行くべし！
- 一、自分から始まる
- 一、どんどん聞くべし！
- 一、出合いを大切に
- 一、明るく元気に笑顔で

この五箇条からも分かる通り、とにかく積極的にいくことが重要であることがよく分かります。

WS隊の中には半年過ぎた後、正式にコンサルタント会社に就職する人もいて、引き続きまちづくりに携わっています。

## 2. H17年度以降のワークショップ隊制度について

事業年度は今年度までとなっていますが、今まで述べてきたようにWS隊の制度は神戸市の地域コミュニティの活性化に貢献しており、コミュニティパワーアップ事業の評価委員会でもWS隊の制度を残して欲しいという声も多くいただいています。



そこで平成17年度以降も何らかの形でこの制度を継続したいと考えています。

現在WS隊のOBについてはあまり活用されていない状況ですが、経験をつんでいるOBにも次年度以降は協力してもらい、人材バンクのようなかたちで地域からのWS隊派遣への依頼に何らかの形で対応できるよう工夫していきたいと考えています。

また現在は国の緊急地域雇用創出特別交付金事業を活用した事業ですが、今後何らかの仕組みを作り引き続きWS隊が活躍でき、WSを通じて地域のコミュニティが活性化できるようにしていきたいと思ひます。



# ロンドンにおける新しいまちづくり -その1-

## はじめに

阪神・淡路大震災から丸9年が過ぎて、震災復興のまちづくりも進捗し、一応の目処が立ってきました。

私が現在所属する職場は、各区役所と連携を図りながら、ポスト震災復興のまちづくりとして、「今後の神戸の都市づくり」、「住環境整備」及び「都市景観」を担当し、地域住民のみなさんとともに地区特性を活かしたまちづくりや地域課題解決のためのまちづくりを進めています。

これからの都市計画やまちづくりは、限られた予算の範囲内で、有効かつ効率的に進める必要がありますが、そのためにも、行政の発意による計画策定、事業実施だけではなく、都市再生法に基づくまちづくりなど、民間発意のまちづくりへの支援が行政の重要な役割となっていくものと考えられます。

今年の2月に、海外への出張の機会が与えられましたので、都市計画やまちづくりを推進しているヨーロッパの先進的な民間団体をヒヤリング調査しました。

このうち、今回と次号はロンドンで新しいまちづくりの活動を行っている非営利組織「PLP」のヒヤリング結果をまとめてみることにしました。

## PLP (The Pool of London Partnership) について



(PLPの区域図)  
※中央部左右の太い帯はテムズ川

### (1) 設立の背景

ロンドン市のうち、テムズ川に面する地域は最も古い地区で、テムズ川を利用した港湾流通の中心地区として古くから開発が進み、ロンドン塔やタワーブリッジなどの歴史的な建造物が多く残る資源豊かな地域です。

約30年前に当該地にあった市の港湾局の事務所が30マイル下流の地域に移転しましたが、それ以前からも当該地域の再開発が課題となっており、1960年代から70年代にかけては、建物の再利用が重点的な課題でした。例えば空き地が発生しても約30年間も手付かすの状態が続いていました。

また、テムズ川の南側の地域は、北側の地域に比

べて経済的基盤が弱いいため、南側の地域は特に経済的な開発が課題となっていました。



(開発が遅れていたテムズ川南岸地区)

また、ロンドン市内は、さらに小さな自治体(規模は区のようなものですが、その行政権限は県程度もあるようです。一方、ロンドン市には、都市計画に関する

権限は与えられていないようです。)に分かれているため、都市計画や市街地の再整備などの事業は、その小さな自治体単位で進められる(テムズ川の南と北は別の自治体になります。)ことになり、テムズ川を挟んで一体的に開発することは、それまで実現していませんでした。

そこで、当該地域に対して既に投資していたビジネス会社や不動産会社等が働きかけを行い、公的機関も含めた新たなパートナーシップの組織(PLP)が1995年に設立されることになりました。

PLPの目標は、①活動対象地区における施設整備を通じて、ロンドンの都市魅力を向上させるとともに、開発による地域住民への雇用機会の創出などの開発利益の地域への還元を行う。②地域住民のための職能訓練の実施など、直接的な地域メリットのある活動を実施する。としており、活動の目的は、

- ・訪問者、地域住民、就労者にとって魅力ある場所の整備を行う
- ・地域住民に対して雇用機会、職能訓練の機会を与える
- ・ロンドンが世界中からの訪問地として繁栄する
- ・ロンドンにおける新しい行政主体となる

こととしています。



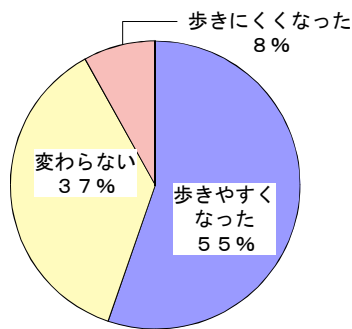
(PLPの事業で建設された新しいロンドン市庁舎)  
※通称: スモール・ガーキン

(PLPの活動内容等は、次号に掲載します。)

烏田政明(神戸市都市計画総局地域支援室)

(1面からの続き)

ただし、駅前の限られたスペースでは、安全な歩行者空間の確保までは取り組むことができず、また交通実験では通行区分（横断歩道）を示せなかったため、歩きやすさについては、半数以上の方が歩きやすくなったと評価はしていますが、他の項目に比べると低い評価となりました。また、ロングタイプの大型車両はロータリーを回れなかったため、その切り返し時の歩行者安全確保のため、誘導員を配置した実験とせざるをえませんでした。



●アンケート結果（歩行者の交通実験の評価）

### 3. 次の取り組みへ向けて。

今回の交通実験により、ロータリーを設置することでJR須磨駅前が利用しやすくなり、見た目もすっきり美しくなることから、魅力的な駅前のまちづくりにつながることが分かりました。一方で現在のスペースだけでは十分な駅前広場機能を確保できないことも強く実感しました。

今後も、一気に完成形の駅前まちづくりの実現は困難ですが、今回の実験結果や評価を踏まえて、神戸市はじめ関係機関の協力を得ながら、コンパクトな駅前広場や駅前まちづくりの可能性を検討し、“できることから”取り組んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、交通実験にご協力いただいたみなさまに感謝申し上げます。

## まちセン研究ネットだより

台湾のまちづくり文献

「台湾 社区総体营造の展開 陳 亮全」が発刊されました。

（翻訳・編集） 台湾まちづくり研究会

この文献は、台湾集集大震災後の復興まちづくりを通じ、台湾のまちづくりから学ぶことも少なくないということで翻訳出版されました。

ご希望の方には、実費でお分けします。まちづくりセンターまでご連絡ください。



## まちづくり会館からのお知らせ

まちづくり会館ギャラリー春の企画展

第四回 兵庫県書作家協会

墨滴会による「禅語を書く」書展

会期 6月10日(木)～15日(火)

午前10時～午後6時(但し、最終日は午後4時まで)

会場 こうべまちづくり会館地階 ギャラリー

主催 こうべまちづくりセンター

兵庫県書作家協会 墨滴会

後援 神戸市・神戸市教育委員会・神戸新聞社

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

6月 1日(火)～29日(火)	土砂災害防止月間展	国土交通省六甲砂防工事事務所
-----------------	-----------	----------------

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
6月 3日(木)～ 8日(火)	KP展(パステル画)	神戸パステル画会
6月10日(木)～15日(火)	第四回 兵庫県書作家協会 墨滴会による「禅語を書く」書展	まちづくりセンター
6月24日(木)～29日(火)	第6回水彩・パステル展	グループWa